

このことについて、下記のとおり「麦作情報（第1号）」について送付しますので、業務の参考にして  
ください。

## 令和5年産麦作情報（第1号）

### 1. 気象の概要

- ◆平均気温…11月中旬～11月下旬まで平均すると、平年より3.6℃高く、半旬毎では約2℃～5℃平年より高くなった。12月に入り10日まで、平年より高い日と低い日が周期的に繰り返されているが、平均すると0.5℃低くなっている。
- ◆降水量は…11月中旬～降雨は少なく推移したが、11月29日にややまとまった降雨がみられた。11月15日～12月10日までの降水量を平均すると、平年比33%と平年より少なく推移している。
- ◆日照時間…11月15日～12月10日までの日照時間は、平年と比較して長く推移している。（平年比108%）

### 2. 管内麦類の生育状況

▼三神管内の調査結果

場所	品種名	播種日	苗立ち数 (本/m <sup>2</sup> )	草丈 (cm)	莖数 (本/m <sup>2</sup> )	葉数 (L)	備考
上峰	シロガネ コムギ	11/27	158	—	—	—	・播種期は平年並み ・生育は平年並み
吉野ヶ 里	はる風 ふわり	11/15	139	—	—	—	・播種期が平年より早い ・生育は平年より進んでいる
鳥栖	はるか 二条	11/20	130	—	—	—	・播種期は平年並み ・生育は平年より進んでいる

※生育調査は、1月～予定

【概況】

- ・11月以降、降雨が少なく晴天が続いたことから播種に係る作業は順調に進んだ。
- ・小麦の播種作業は、11月中～下旬を中心に行われ、出芽は良好で、現在1～3葉期となり、間もなく分けつの抽出期を迎える。
- ・大麦の播種作業は、11月下旬を中心に12月上旬まで行われ、現在出芽期～2葉期と播種期によるばらつきが多くなっている。

### 3. 今後の管理

#### ◆追肥（本葉3～4葉期頃）

- ・追肥は生育の状況をみながら、葉齢3～4葉期頃に施用する。
- ・晩播した圃場で追肥施用分も併せて元肥に重点施肥した圃場では追肥を施用しない。
- ・土壌が乾かず、散粒機や動散等で全面散布を行う場合は、施用量を1～2割程度増やす。
- ・追肥の効果を高めるためには追肥後の土入れ（5葉期以降）が有効である。

### ◆麦踏み（3葉期以降）

- ・麦は畑作物であり、水分も必要であるが、過剰であれば生育阻害の要因となり、麦踏み・土入れ等、肥培管理を徹底するためにも、圃場が乾燥していることが求められる。
- ・土壌水分が高い時に麦踏みを行うと土が締まり、湿害を助長し排水性が悪くなる。

#### 【麦踏みの効果】

- ①耐寒性向上 ②根量増加 ③短稈多分げつ型への誘導 ④早立ち防止で凍霜害回避

### ◆土入れ（5葉期以降）

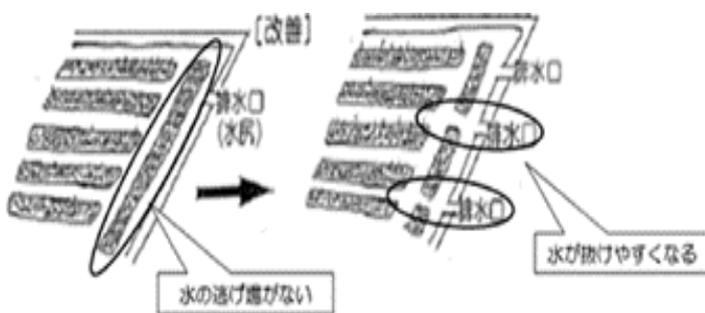
- ・土壌水分が高いときに土入れを行うと、土塊が大きく麦が埋まり土から出てこなくなる。
- ・雑草防除と排水対策もかねて、圃場の条件をみながら計画的に土入れを実施する。
- ・分げつ初期に土入れ量が多いと、分げつを抑制することがある。
  - 土入れの量は生育初期は少なめに、生育が進むにつれて量を増していくことが基本。
- ・播種量が多く苗立ち数が多い圃場では、例年より土入れを1～2回増やして過剰分げつを抑制する。※過剰分げつは、細莖化を招き倒伏に弱くなる。

#### 【土入れの効果】

- ①防寒 ②保肥力増大 ③倒伏防止 ④無効分げつ制御 ⑤雑草防除 ⑥排水促進

### ◆排水対策

- ・排水対策は、分げつの確保や登熟向上・収量向上・品質向上に重要である。
- ・土入れに加え、まくら地の排水溝を整備し、圃場内の水を早く排水できるように努める。
  - 特に、トラクターカルチで土入れを実施する場合には、排水不良（うね溝の停滞水が多くなる）となりやすいので、うね溝と排水口とをつなぐように徹底する。
- ・近年は温暖化の影響で大雨が降ることが多い。水が溜まったら排水溝に逃がす作業を必ず実施する。



### ◆鳥獣害対策

#### 1) カモによる食害

- ・川沿い(筑後川、クリーク等)の麦においてカモによる食害が毎年確認されており、本年も被害圃場が散見される。
- ・被害が小さい場合、補償作用により減収も限定的だが、時期が遅く被害が大きい場合は、減収につながる恐れがある。

#### (症状)

- ・麦の地際部まで草刈り機で払ったように葉が切れている。
- ・周辺に鳥の糞が落ちている。



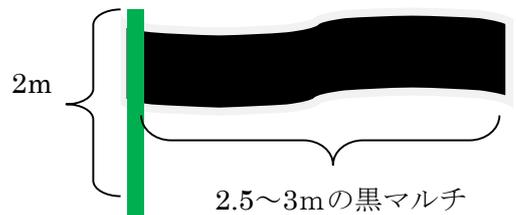
▲【カモによる食害痕】



▲【カモによる食害圃場】

(対策)

- カモ害の対策として、「のぼり」や「テグス」などの方法がある。「のぼり」は、マルチ支柱の高さが短かかったり、10aあたりの「のぼり」の本数が少なすぎると効果が低減する。
- 水路寄りの部分を中心に設置すると効果的である。
- 2.5～3mの黒色のマルチを2mの支柱につるした「のぼり」を10aあたり5本均等に設置する。  
(費用は、「のぼり」1本あたり約420円)



2) カラス

カラスによる被害は、有害鳥類の中で最も多く、加害対象や内容も非常に多岐にわたる。

(症状)

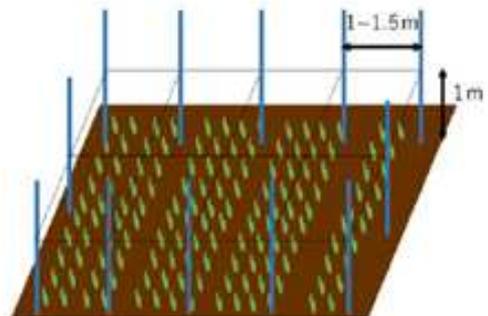
- 写真は播種後の種をくちばしで探って食べた後の被害圃場である。
- 雑食性で、水稻や麦の種子もよく食べる。



(対策)

- 黒のワイヤ線としなりやすい支柱を用いて、カラスの翼を広げた時の長さ(1~1.5m)の間隔で約1mの高さに設置することにより、飛来するカラスは嫌がる。

さらにテグスなどを張り巡らせると翼に当たるのを嫌がる為、効果が高くなる。ただし、歩いてくるカラス、ハトやカモには効果がない。



(次年度対策)

- 忌避剤として、キヒゲン R-2 フロアブルを種子粉衣する。ただし、絶対的な忌避効果ではないため、周辺に他の餌が少なければ加害を受ける。

#### ◆雑草対策

- 同一除草剤の連用により除草剤抵抗性雑草の発生が報告されている。これまでに同一の除草剤を連用した圃場など、除草剤散布後も雑草の取りこぼしが目立った圃場では使用する除草剤の変更を検討する。
- 例年雑草の発生が目立つ圃場では、除草剤 1 回の散布では十分な除草効果が期待できない。麦の生育量確保と雑草種子の混入防止のため、下記の例を参考に体系的な防除を実施する。

#### ○雑草対策の例

- ①播種直後除草剤散布 → ②生育期除草剤散布 → ③中耕（複数回） → ④手取り除草  
※難防除雑草は除草剤 1 回での除草は困難です。地道な防除で根絶を目指しましょう！

#### •【注意】

麦踏み：麦踏前後の除草剤散布は薬害を助長するため避ける。

土入れ：土入れを除草剤散布後に行うと、雑草の蒸散作用が抑制され有効成分の根部吸収が妨げられるので控える（特にステージの進んだ雑草の場合、十分間隔をあける。）

▼生育期除草剤使用例

抵抗性スズメノテッポウにも効果がある。連用による除草効果低下を防ぐ為、ボクサーとの隔年利用を検討する。

農薬名	有効な雑草	使用量	希釈水量	使用時期	総使用回数
		10a当たり			
リベレーターフロアブル	一年生雑草	60～80mL	70～100L	は種後～麦 3 葉期(雑草発生前～イネ科雑草 1 葉期まで)	1 回
ボクサー	一年生雑草	400～500mL	小麦 50～100L 大麦 70～100L	秋播栽培のは種後～麦 2 葉期(雑草発生前～発生始期)	2 回
バサグラン液剤	一年生雑草 (イネ科を除く)	100～200ml	70～100L	雑草 3～6 葉期 小麦：収穫 45 日前まで 大麦：収穫 90 日前まで	1 回
アクチノール乳剤	一年生広葉 ・ <u>カラスノエンドウ</u> ・ <u>ヤエムグラ</u> ・ <u>タデ類</u>	100～200ml	70～100L	雑草生育初期、 麦穂ばらみ期まで	2 回
ハーモニー75DF水和剤	イネ科雑草 ・ <u>スズメノテッポウ</u> ・ <u>カズノコグサ</u>	5～10g	100L	麦 1 葉期～節間伸長前 スズメノテッポウ：5 葉期まで カズノコグサ：1～3 葉期まで	1 回
	広葉雑草 ・ <u>ミチヤナギ</u> ・ <u>タデ類</u> ・ <u>キツネノボタン</u> ・ <u>ヤエムグラ</u> ・ <u>ナズナ</u> ・ <u>ハコベ</u>				
<p>ハーモニー75DF水和剤使用上の注意点</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・播種後にハーモニー細粒剤Fを散布した圃場は使用不可</li> <li>・薬害が生じ易いので周辺作物に注意</li> <li>・使用器具の洗浄をよくし、他作物との併用はしない</li> <li>・<u>スズメノテッポウ</u>、<u>カラスノエンドウ</u>には効果が弱い(抑制するが枯死しない)</li> </ul>					

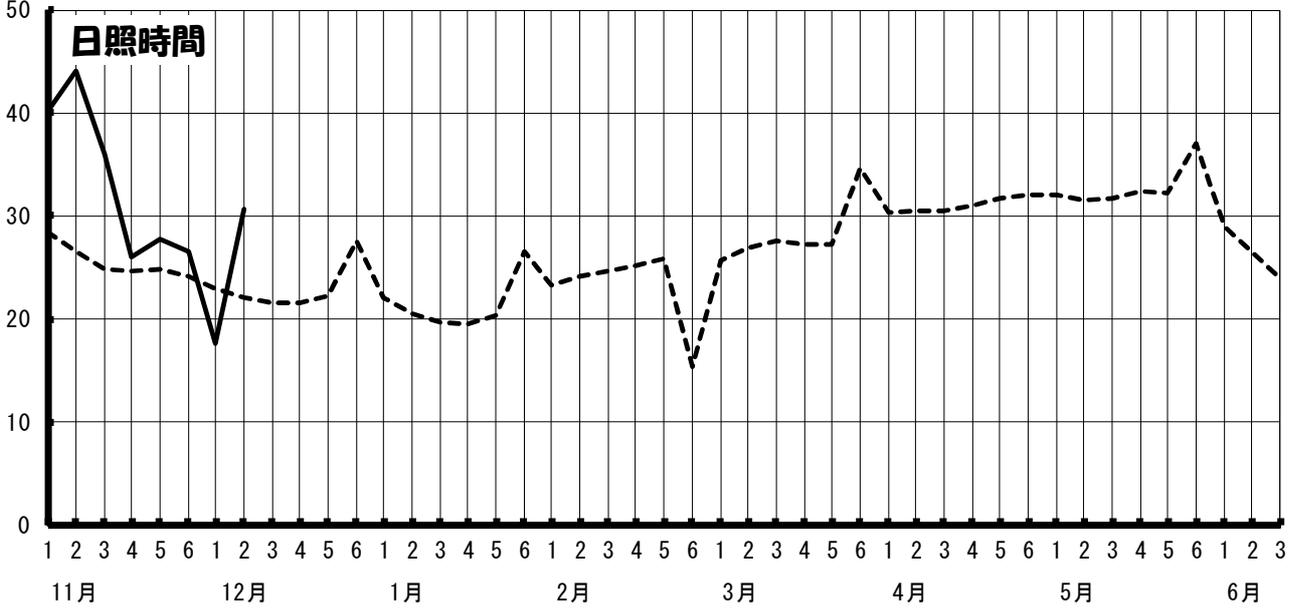
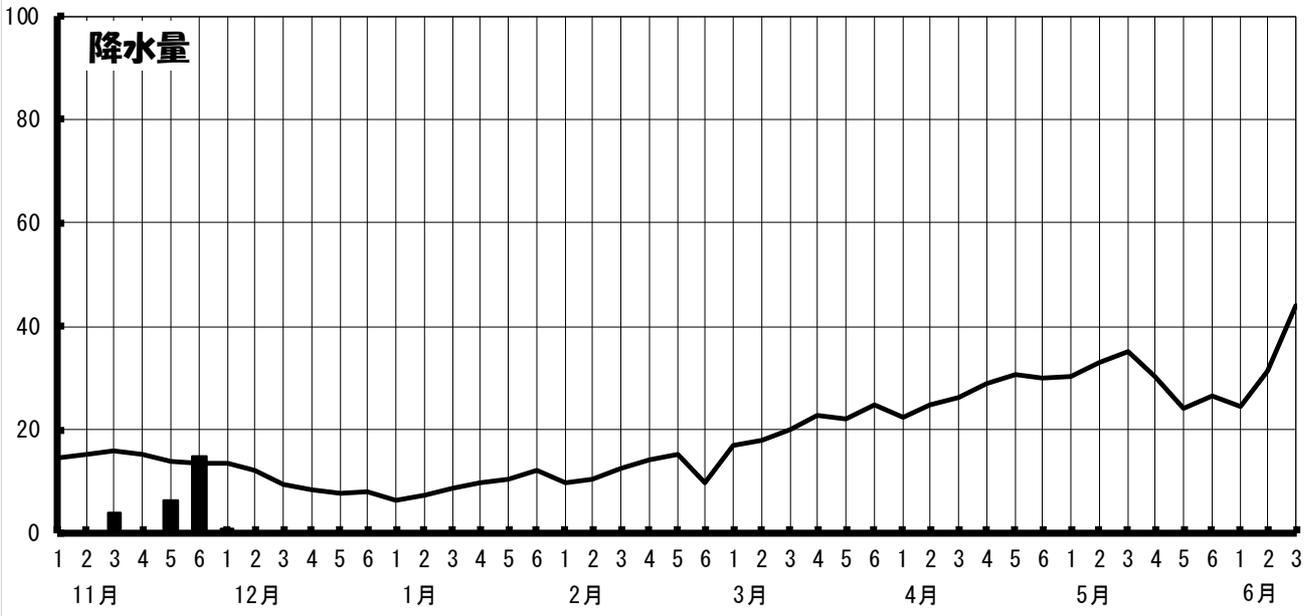
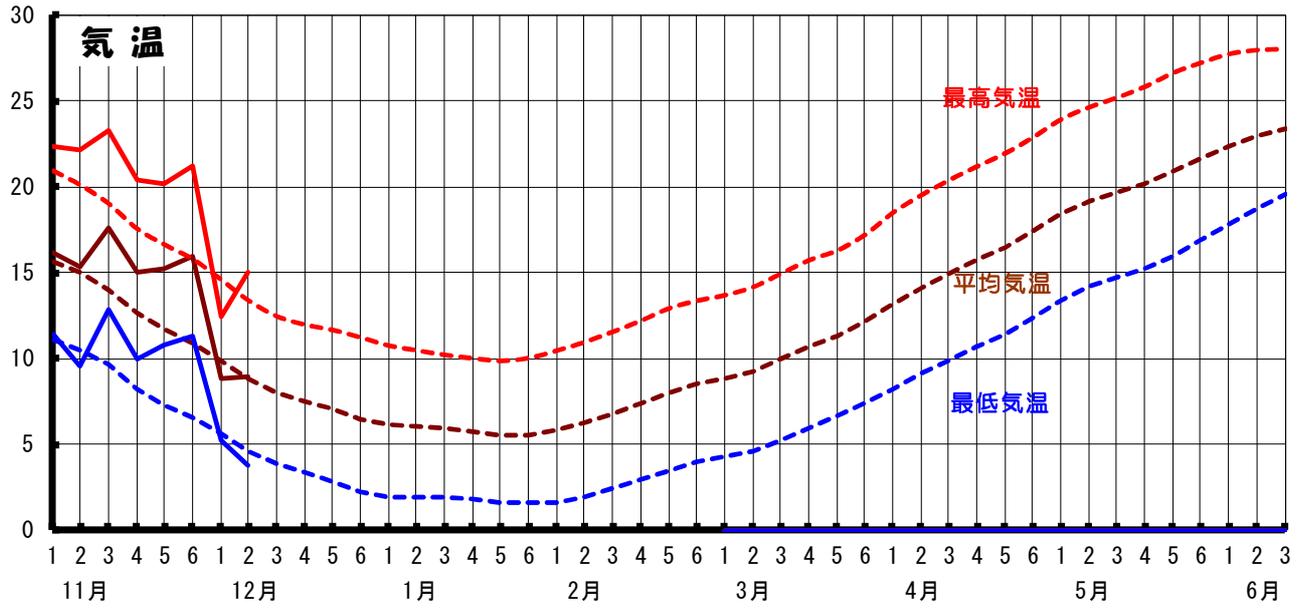
抵抗性をもつ場合は効果が劣る場合がある。連用施用には注意する。

多発田では時期を逃さないように注意！

# R5年産麦類生育期間気象グラフ

アメダス観測値 (佐賀)

三神農業振興センター



グラフ中の点線は平年値